

# 肝臓がん



松阪市マスコットキャラクター  
「ちやちよも」

作成：医事課

## <病気について>

肝臓がんには、最初から肝臓の組織に発生した<sup>げんぱつせい</sup>原発性と、胃がんや肺がんが肝臓に<sup>てんい</sup>転移した<sup>てんいせい</sup>転移性があります。原発性肝臓がんでは<sup>かんこうへん</sup>肝炎ウイルスと関係が深く、ウイルス性肝炎から肝硬変に移行すると肝臓がんの発生率が高くなります。

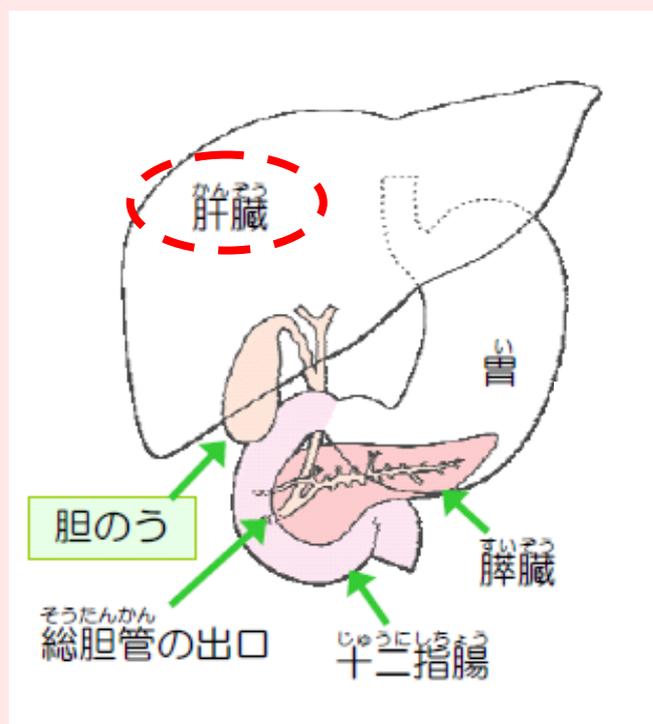
この他にもアルコール性肝障害や非アルコール性<sup>しぼうせい</sup>脂肪性肝炎が原因となる場合もあります。

## <症状>

肝臓は<sup>しんもく</sup>沈黙の臓器といわれ、初期症状は現れず、かなり進行するまで症状は出ません。

進行すると、全身がだるい、食欲がない、微熱があるといった状態になり、右の脇腹やみぞおちのあたりに張った感じや鈍い痛みなどが時にみられますが、症状の現れ方には個人差があります。

検査を受けてがんが、小さい無症状のうちに発見することが大切です。



## <検査>

### 血液検査

がん細胞がつくりだす特有のたんぱく質（<sup>しゅよう</sup>腫瘍マーカー）を血液検査で測定し、がんを発見します。

### 画像検査

<sup>ちょうおんぱけんさ</sup>超音波検査、CTスキャン、MRI、<sup>けっかんそうえい</sup>血管造影などの画像検査により、現在では数 cm 程度のがんを発見することができます。

せいたいそしきけんさ  
**生体組織検査**

肝炎の進行を調べる場合、または、がんの疑いがある場合には、針を肝臓に刺して組織を直接採取し、顕微鏡で調べる検査が行われます。

**<治療法>**

げかてきかんせつじょ  
**外科的肝切除**

最も根治的な治療で、ひょうざいせい表在性のがんでは治療が容易であり、周囲のてんいけっせつ転移結節を除去できる治療法です。開腹下に詳細な転移検索が可能で単発なら大型肝がんでも治療可能です。

はしょうしゃくじゅつ  
**ラジオ波焼灼術**

肝がんに刺した針の先端からラジオ波を出し誘電加熱することにより、がんをえし壊死させる治療法です。

かんだうみやくそくせんじゅつ  
**肝動脈塞栓術**

肝臓に流れてくる血流にはかんだうみやく肝動脈ともんみやく門脈の二つがあり肝がんは肝動脈から栄養を得ているので動脈を詰めることでがん細胞を死滅させる治療法です。

どうちゅうかがくりょうほう  
**動注化学療法**

抗がん剤を注入するポートを皮下に埋め込んで持続的に抗がん剤を流します。

**<入院費概算>**

肝切除術（部分切除）

1割・2割負担 44,400円（上限）                      3割負担 350,000円 前後

※食事代金、個室代金は含まれていません。

※高額医療の方は、申請により限度額認定証が交付されますので、詳細は医事課まで御連絡下さい。

**<28年度当院データ>**

平均入院日数

年間症例数

ラジオ波焼灼術                      4.2日

ラジオ波焼灼術                      16件

肝切除術 部分切除                      16.2日

肝切除術                                      6件

※パンフレットに関するご不明な点等ございましたら、

医事課までお気軽にお尋ね下さい。

松阪市民病院